

winter

秋田ふるさと村のフリーペーパー

中山人形の世界へようこそ。

# むら びと



第二号

平成 27 年

むらびと  
編集部  
ホソカワと  
イズミが  
ゆく



# 中山人形の世界へようこそ。

横手の小正月行事

「ぼんでん」のころになると、地元では「たちまち」と呼ばれる市が出ていた。そこでは、

野菜や漬物や日用品と並んで中山人形も売られていたという。雪の上りにんご箱を置き風呂敷を敷いただけの簡易な店構えだが、整然と並べられた色彩豊かな人形達は真っ白い雪景色でより一層引き立って見えたことだろう。



中山人形は、横手市平鹿町中山で作られはじめた土人形です。もう140年を超える歴史があり、干支の土鈴から歌舞伎や雛人形とその作風はさまざま。今回表紙を飾ったのは、福助。実は一番小さいサイズの福助だけ、紋付がピンクなんですって。つぶらな瞳にかわいらしい色づかい。今号も乙女心がときめきます。

横手市

樋渡徹さん



福助



年の瀬になると毎年のようにテレビや新聞で取り上げられる「中山人形」。「中山人形といえば、干支の土鈴だよ」という人も多しはず。新年、2016年の干支は申(さる)だ。10月末ともなれば、申の土鈴作り真っ最中。そんな中、中山人形唯一の工房「樋渡人形店」へ私たちは取材のためお邪魔した。

未だにあそこで  
生きてるなと思うん  
だよな

「むらびと、読みました。娘が持つて来たので。」と、快く向かえてくれたのは、樋渡人形店の五代目・樋渡徹さん。「最初こけしのことで、小椋久太郎さんのこと書いていて懐かしいな」と思つて。実は、私高校卒業してすぐ民芸品の卸問屋さんに勤めたんですけども、その時にちょうど湯沢のいこいの村ができたときで、私、県南の方担当だった

んで小椋さんの家にこけしをもらいに行つたり・・・」

樋渡さんは、中山人形を作る唯

一の職人だ。直前に取材を申し込んだにも関わらず、申の土鈴が並ぶ工房で、懐かしそうにむらびと第1号で特集した木地山こけしの思い出について語ってくれた。秋田ふるさと村の工芸展示館では、中山人形を常設展示している。お内裏様とお雛様、兵隊さんや十二支の土鈴までと多種が一同に揃っている。それは、ほぼ四代目のお父様が作られたものだと言つた。

「工芸展示館でビデオ流してますよね、あれにうちの親父が映ってるんです。懐かしいな」と思つて。うん、ちゅーかありがたいというか。まあ亡くなつて10何年も経つんだけど未だにあそこで生きてるなと思うんだよな。」

それを聞いたとき、工芸展示館という貴重な空間を有効的に継続していなければと強く思つた。お客様に見てもらうだけでなく、職人の後継者の方が見に来て先代の技を確かめたり、感じたりしているのだ。

「あそこに行くとき型抜きの写真とかがあつて、あれ私。今で言う手タレ。(笑)」とお茶目な樋渡さん。





「おれさまも作ってけねが」

樋渡人形店に入ると、すぐ目の前に年代を感じる人形たちや土製の型枠などがショーケースに収められていた。「これ原型つって。土型作る前に、これにくっつけて作るんです。原型が残っているのはめずらしいちゆうことですね。」と、収められたものを説明してくれた。

「まあ、野田宇吉っていう中山人形を始めたヨシの義理の父になる



人が焼き物  
焼きだった  
から。こ  
う土仕事、  
細かい仕事  
に自信が  
あったのか  
なと思う。

さらにヨシさんは、手の器用な人だったということだ。それにしても、その当時の女性で新しいことを自分でやり始めるということ自体が珍しいことだったのではないだろうか。樋渡さんは、ヨシさんは趣味で始めたのではないかと推測しているそうだ。元々、宇吉さんが焼き物を

焼くのが仕事であった。中山にのぼり釜があつたつていうことで土はあるという訳だ。ヨシさんは、おばあさんが横手のお城に乳母としてつかえていて、一緒に付いていきお城にある絵巻物などの綺麗なものを見て、自分でなにか作ってみたいと思つたのではないかとのことだ。

リンゴの木箱に  
風呂敷を敷いて…

昔、朝市などでも売られていたと聞いたことがあると伺つてみると、樋渡さんはおもむろに資料が入ったファイルをめくりながら話始めた。

「こつちでいう、「たちまち」っていううんだけれども。そうゆうどころで…」

見せてくれた一枚の写真《P1写真》。思わず「わ」と声を上げてしまった。それは、寒い冬の季節、雪の上でほつ被りをして防寒をし中山人形を並べ売っている、まさに思い描いた情景だった。

か。これも、雪国・秋田ならではの忘れてはならない情景なのだと思う。

世界で一つの先代萩

これまでの沢山の人形を作ってきた思うが、樋渡さんがはじめて作った人形や思い入れのある人形を聞いてみた。



miNca

中山人形取り扱い店  
miNcaさんに聞いてみた

miNca店主  
佐藤美博さん



中山人形を販売させてもらってから3年、年ごとにその魅力に惹き込まれています。この魅力を決して一言では言い表せないのが魅力なのかもしれません。

現在では郷土玩具と呼ばれる部類にあたりますが子供がこぞ買って買いに並ぶ「おもちゃ」ではなくなつてしましました。元々は地域の民衆の中に溶け込み子供や親が買い与えるまさしく「おもちゃ」でした。近代的な玩具が増える中でも季節や行事には大切に飾られているのは人形と手にした人との心の通いがあるからではないかと感じています。

いつの時代になつてもそうたやすく途絶えるものではないと信じております。

ある中山人形。今では、子どものおもちゃではなくなつたけれど、作り手の熱意はずつと変わらないうい。「作ることが本当に楽しく」と語る樋渡さんの作る中山人形は生き生きとしている。

「うん、その人たちが横手平鹿の増田どが十文字どが、いろんなところに行つてな。遠くは、山形の方からも仕入れに来たつて話もしてらつたけど。うちのじいさんの兄弟の娘さんなば、2月のあたり中山から売りに行く時、平鹿町から増田まで、かた雪の上をまつつぐ歩いて売りに行つたも

「うん、その人たちが横手平鹿の増田どが十文字どが、いろんなところに行つてな。遠くは、山形の方からも仕入れに来たつて話もしてらつたけど。うちのじいさんの兄弟の娘さんなば、2月のあたり中山から売りに行く時、平鹿町から増田まで、かた雪の上をまつつぐ歩いて売りに行つたも



「それで作つてみたら「おれさまも作ってけねが」とだんだんと広まつつて商売になつていつたんでねがと思うんです。」

「それで作つてみたら「おれさまも作ってけねが」とだんだんと広まつつて商売になつていつたんでねがと思うんです。」

「それで作つてみたら「おれさまも作ってけねが」とだんだんと広まつつて商売になつていつたんでねがと思うんです。」

人々の暮らしの中に

職人を語るにはその娘に聞け、と、いうことで実の娘さんに勝手に聞いてきました。



娘から  
樋渡徹は  
こんな人。

園芸。(サボテン、金のなる木、レモンの木、ベコニア等大切に育てています。) お酒大好きです。(毎日晚酌しています。) 車大好き。(とても丁寧に乗っています。古い車も好きです。) 音楽が好きです。(特にビートルズ。) 映画が大好きです。 BSにハマっています。 消防団で活動しています。

中山人形がある暮らし。

編集部ではminica店主

佐藤さんのご紹介で  
中山人形を大切にされて  
いたいただきました。

中山人形店そばの  
旧横手市内出身。

現在は大仙市に

お住まいの今井弘子さん

(元美術教師)にお話を

伺いました。

編集部(以下編)今井さん  
はどのような中山人形をお持ち  
ですか?

今井さん(以下今)雛人形  
を持っていきます。姉が生まれ  
た時、祖父に買ってもらった  
雛人形が実家にあるんです。  
それがあまりに欲しくて「わ  
たしのお雛様ほしいーっ」と、  
と、ずっと言っていたから母が  
大学卒業の時に買ってくれました  
(笑)。まるいフォルム  
がかわいいでしょ。母も自分  
の雛人形を持っていて、それ  
と同じ型のようにです。  
編人形作りも身近なことだっ



たんですね

昔は、友達の家に行くとおばさんが中山人形の竿燈の部分だけを作る内職をしていました。あと、秋田犬のしっぽとかね。昔は横手市だ、お土産屋さんでなくても、衣料品屋さんとかこのお店に行っても売ってましたね。



お待ちしました!!

ふるさと市場「あきたや」では  
樋渡さんの思いが詰まった中山人形  
十二支の土鈴【さる】を限定入荷です!

## 中山人形の はなし展

むらびと第2号で取り上げた中山人形を  
思い出話やエピソードとともに展示!  
ただ見るだけでなく、  
読んで感じる企画展です。

2015 12月26日(土曜日) 2016 2月14日(日曜日)

会場 > 秋田ふるさと村 工芸展示館前

本展では職人 樋渡さん思い出の人形や秋田ふるさと村のメインキャラクター「ノブ」の中山人形、また今号でも紹介した今井さんの雛人形(お姉さん、お母様の雛人形や申姉こも展示)、あきたや佐藤幸一オーナーのコレクション展示をします!

むらびと表紙イラスト原画展示  
福を呼ぶ福助パネルで記念撮影  
福助コーナーなど楽しい企画がいっぱい!

その他にも

ちょっと  
恥ずかしい

この愛嬌ある眼差し。  
か、かわいい(編集部談)。



暮らしを見守ってくれる中山人形

『来年の干支を飾り、今年の干支を片付ける。そんな時、感じることは「今年も一年間無事に過ごすことができました。ありがとう。」という感謝の気持ち。そんな中山人形は時の移ろいを感じさせてくれるまさに「心の癒し」ですね』

秋田ふるさと村内  
ふるさと市場 あきたや  
佐藤幸一オーナー



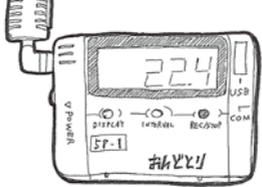
# あなたの知らない美術館

むらびと新田が秋田県立近代美術館の不思議物件をそつご紹介いたします。



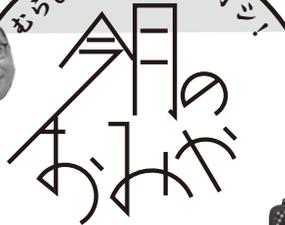
むらびと編集会議の中で誰かが口にした疑問「展示室の隅にあるあのマシンは何?」。

学芸部長の榎尾さんに訊いてみました。  
「『自己温湿度計』です。展示室内の温度と湿度が適正に保たれるように常にチェックしているんですよ。ちなみに、平成24年頃にすべての温湿度計を買い替えて、今は紙を使わずデータをパソコンに取り込むスタイルになりました」



作品保護とお客様の快適な環境維持のために日夜働いている健全なマシンたち。アート鑑賞のついでに探してみませんか。楽しいかもしれませ

むらびと山浦のイチオシ!



甲州印伝とは...  
甲州(山梨県)に400年以上にわたり伝承されてきた鹿革に漆で模様付けした伝統工芸です。



ミラー  
2,300円(税込)

私の出身地、山梨県の伝統工芸品「甲州印伝」に秋田限定柄があったとは!!!しかもかわいい。山梨のお知り合いに贈れば喜ばれることまちがいない!

うれしくて名刺を購入しました!  
取扱店・  
秋田ふるさと村内  
ふるさと市場  
さくら庵

## むらびと オリジナル 読者プレゼント!

「むらびと」第2号についてメールかお葉書で下記の①から⑥までのご意見をお聞かせください。ご協力いただいた方の中から、抽選で5名様に阪本真千代さんによる表紙イラスト「福助」の缶バッジをプレゼント!!!

①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号  
⑤どこで「むらびと」を手に入れましたか?  
⑥「むらびと」についてのご意見ご感想  
なお当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

宛先 〒013-0064  
秋田県横手市赤坂宇富ケ沢 62-46

メール info@akitafurusatomura.co.jp

むらびと読者プレゼントコーナーまで

締切日◎平成28年2月29日必着



## むらびと伊勢が贈る四コマ劇場!

### 鍋パーティー story 2



編集後記

中山人形特集、お楽しみいただけましたか? 取材中たくさんのお出合いがありました。一口に中山人形と言っても、持ち主によつて思い出やエピソードはさまざま。皆さんもぜひ中山人形を見つけてください!

中山人形とむらびとに会える村

秋田ふるさと村

営業時間 9:30~17:00  
住所 〒013-0064  
秋田県横手市赤坂宇富ケ沢 62-46  
電話番号 0182-33-8800  
駐車場 3,000台(無料)  
休業日 平成28年1月12日(火)~21日(木)

制作編集 秋田ふるさと村 編集 編集部 泉島高志、新田潤海子、山浦亮太、細川真冬、表紙イラスト 阪本真千代(写真 高橋希子/フォトカメコ) ©モザイク 細川真冬

m u r a b i t o

朝食をいただき、出かける準備をすませたら、長男と散歩に出かける。7:40に近所を通過する秋田新幹線こまちにバイバイをして、20分ほど散歩をつづける。  
ヘルメットをかぶり自転車をこぐ通学途中のシャイボーイにも、容赦なく



「はよう！」と声をかける2才児。最寄りの駅に停車する在来線の車掌さんにバイバイをして、私は会社へ、長男は保育園へ。  
こんな生活、想像できなかったなあ。2016年はどんなことがあるのだろうか。

留ふるさと村  
Kamakuland



営業部

山浦亮太

昭和57年生まれ。山梨県甲斐市出身。  
正確には母親のふるさと岩手県一関市で生まれ、父親のふるさと山梨県北巨摩郡双葉町（現甲斐市）で育つ。  
現在は妻のふるさと秋田県大仙市で暮らし、秋田ふるさと村で働く。

#2  
y o t a y a m a u r a